

read. 「私は、私が読んだ何冊かの本について話します」 some books を which I've read が後ろから修飾している。先行詞が〈もの〉なので、関係代名詞(目的格)は which を使う。 (ア) Do you know who she is? 「あなたは彼女がだれか知っていますか」 Do you know のあとに〈疑問詞+主語+動詞〉の間接疑問が続いている。

- 10 (ア) [ ] (イ) [ ] (ウ) [ ] (エ) [ ]

(解説) (ア) Today, I have something interesting to show you. 「今日、私はあなたに見せるためのおもしろいものを持っています」 to show (you) は形容詞的用法の不定詞で、something interesting を後ろから修飾している。〈something+形容詞〉「何か～なもの」の語順に注意。 (イ) Ukiyoe pictures can be seen in some museums in your country, too. 「浮世絵はあなたの国の美術館でも見られます」 〈can be +過去分詞〉「～されることができる」 (ウ) Now I want to know more about ukiyoe pictures. 「今、私は浮世絵についてもっと知りたいです」 want は不定詞を目的語とする動詞。〈want to+動詞の原形〉「～したい」 (エ) Wow, I am looking forward to going there! 「わあ、私はそこ(=浮世絵の展覧会)へ行くのを楽しみにしています」 look forward to ~ing 「～するのを楽しみに待つ[する]」

- 11 (ア) [ ] (イ) [ ] (ウ) [ ] (エ) [ ] (オ) [ ]

(解説) (ア) She is the best player in our school. 「彼女は私たちの学校で最も上手な選手です」 この best は good の最上級。 (イ) I bought a new computer, but I don't know how to use it. 「私は新しいコンピュータを買いましたが、その使い方がわかりません」 〈how to+動詞の原形〉「～のしかた」 (ウ) Kenta, you must be careful when you ride your bike. 「ケンタ、自転車に乗るときは注意しなければいけません」 〈must+動詞の原形〉「～しなければならない」 when ~ 「～するとき」 (エ) Our plan is to visit temples in Kamakura. 「私たちの計画は鎌倉の寺を訪ることです」 to visit (temples in Kamakura) は名詞的用法の不定詞で、ここでは文の補語になっている。 (オ) It is famous for selling bikes made in America. 「それ(=この自転車店)はアメリカで作られた自転車を売っていることで有名です」 be famous for ~ 「～で有名である」。この selling は動名詞。bikes を made in America が後ろから修飾している。

- 12 (ア) [ ] (イ) [ ] (ウ) [ ] (エ) [ ] (オ) [ ]

(解説) (ア) Can you guess how many computers are used in Japan? 「あなたは日本でコンピュータが何台使われているか推測できますか」 間接疑問は、主語が how many computers で、受動態(=be動詞+過去分詞)。 (イ) Yes, but I think Yoko cooks much better than Maki. 「そうですね、でもヨコのほうがマキよりもずっと上手に料理をすると思います」 well は better—best と比較変化する。「…よりも…ずっと～」と比較級の意味を強めるときは much を使う。 (ウ) I don't think you will be able to eat dinner. 「あなたは夕食が食べられなくなると私は思います」 〈be able to+動詞の原形〉「～することができる」 (エ) Tom, are there any places you want to visit this Sunday? 「トム、今度の日曜日にどこか訪問したい場所がありますか」 any places を you want to visit this Sunday が後ろから修飾している。 (オ) I had to finish writing my report last night, so I went to bed at one. 「私は昨夜レポートを書き終えなければならなかつたので、1時に寝ました」 〈had to+動詞の原形〉「～しなければならなかつた」 finish ~ing 「～し終える」

- 13 (ア) [ ] (イ) [ ] (ウ) [ ] (エ) [ ] (オ) [ ]

(解説) (ア) I think he will become popular soon. 「彼はすぐに人気が出ると思います」 think (that) ~で「～だと思う」。that は省略されている。 (イ) I have not seen you for a long time. 「私は長い間あなたに会いませんでした[久しぶりですね]」 繼続を表す現在完了の否定文。see—saw—seen (ウ) I'll ask her to sing some songs at the school concert. 「私は彼女に、学校のコンサートで何曲か歌ってくれるように頼んでみます」 〈ask+(人)+to+動詞の原形〉で「(人)に～するように頼む」。 (エ) I wanted to finish reading it last night, but I couldn't. 「私は昨夜それを読み終えたかったのですが、できませんでした」 want は不定詞 〈to+動詞の原形〉を、finish は動名詞(~ing)を目的語にとる。want to ~ 「～したい」 finish ~ing 「～し終える」 (オ) It's the most delicious cake I've ever had. 「それは私が今までに食べた中で最もおいしいケーキです」 the most delicious cake を I've ever had が後ろから修飾している。

- 14 (ア) [ ] (イ) [ ] (ウ) [ ] (エ) [ ] (オ) [ ]

(解説) (ア) But it was not as exciting as the movie we saw last week. 「でもそれ(=今日の映画)は私たちが先週見た映画ほどわくわくしませんでした」 〈not as+原級+as ....〉で「…ほど～ではない」。

P25

〔出題パターン〕

〔例〕

- 〔解説〕 空所後の母親の答えに着目。ユウタは週末の天気をたずねている。未来のことなのでwillを使う。  
 〔全文訳〕 ユウタはサッカーが大好きです。  
 彼と彼の友人たちは、今週末にサッカーをするつもりです。  
 ユウタは母親に「今週末の天気はどうかな？」とたずねました。
- 彼女は新聞を調べて「土曜日は雨だけれど、その次  
 の日は晴れるみたいよ」と言いました。  
 その後ユウタは、日曜日にサッカーを楽しもうと  
 決めました。彼は、友人たちにEメールでそのことを  
 伝えました。

P26~31

〔練習問題〕

1 〔例〕

- 〔解説〕 空所後の母親の答えと、Bのイラスト内の movie に着目。  
 〔全文訳〕 マコトは掃除をするのが好きではありません。だから、彼の部屋はいつも散らかっています。  
 ある日、彼は母親に「映画(を見)に行ってもいいかな？」とたずねました。彼の母親は「最初に自分の部屋  
 を掃除しなくちゃだめよ。そのあとなら行っていいわ」
- と言いました。  
 マコトは部屋の掃除を終えました。  
 彼の母親は、「いいわ、マコト。映画を楽しんで」と  
 と言いました。  
 それから、マコトは出かけました。

2 〔例〕

- 〔解説〕 空所後のシンジの答え I have three. に着目。飼っている犬の数をたずねる文を作る。  
 〔全文訳〕 ある日曜日、シンジは公園でサラに会いました。サラは彼女の犬を連れていました。  
 シンジは自分の犬について、サラと話しました。サラは彼に「あなたは犬を何匹飼っているの？」とたず  
 ねました。彼は「3匹飼っているよ。次の日曜日に彼らといっしょにここに来るよ。いっしょに散歩しよう」と  
 答えました。  
 次の日曜日、シンジとサラは4匹の犬といっしょに公園を散歩して楽しみました。

3 〔例〕

- 〔解説〕 空所後のアサミの答え At Green Flower Shop. に着目。ボブは花を買った場所をたずねている。  
 〔全文訳〕 ボブの祖母は入院していました。ボブは、お見舞いに行き、彼女に花を持っていきたいと思いました。  
 ある日、ボブはアサミに会いました。彼女はきれいな花を持っていました。ボブは彼女に「この花はどこ  
 で買ったの？」とたずねました。
- 彼女は「グリーン花店よ」と答えました。  
 その次の日、ボブはグリーン花店へ行きました。彼はそこで、祖母のためのきれいな花を見つけました。

4 〔例〕

- 〔解説〕 空所後のマサシの答え Yes, I know the way. に着目。Yes / No で答える疑問文にする。  
 〔全文訳〕 ある日、マサシと彼の友人であるジェフは、日本のマンガの展覧会のポスターを見かけました。  
 マサシはジェフに「博物館(美術館)に展覧会を見に行こうよ」と言いました。  
 ジェフは「うん、行こう！ ぼくは日本のマンガに
- 興味があるんだ。そこ[博物館/美術館]への行き方を知っているかい？」と言いました。  
 マサシは「うん、道を知っているよ」と言いました。  
 その後の日曜日、彼らは博物館(美術館)を訪れ、いっしょに展覧会を楽しみました。

P60~62

[出題パターン]

(ア) (イ) (ウ)

(解説) (ア) 〈全文訳〉を参照。 (イ) 下線部の前のハルカの発言, First, ~「まず~」, Second, ~「次に~」, Third, ~「3番目に~」の語に注意して、折り方の正しい手順を読み解く。下線部のあとハルカの発言で、ベスがどのように間違えてしまったかが説明されている。 (ウ) c 「ハルカは折り紙のことについて何も知らない男の子が多いと思っていたので、最初は、マコトがそれについてよく知らないだろうと思っていました」 本文20~21行目参照。 e 「ベスは、日本の子どもたちはときどき自分で紙を折って作った『かぶと』をかぶると知りました」 本文54~55行目参照。

〈全文訳〉

ハルカとマコトは日本の高校生です。教室で、初めてベスと会います。彼女はアメリカ合衆国から日本に来たばかりの外国人留学生です。

ハルカ：日本へようこそ、ベス。私の名前はハルカです。はじめまして。

マコト：ぼくはマコト。ようこそ！

ベス：こちらこそはじめまして、ハルカとマコト。私はあなたたちのクラスメートになれてうれしいわ。私は日本が大好きなの。私はアメリカ合衆国にいたとき、毎日、日本のアニメをインターネットで見ていたわ。でも、日本について、まだたくさん知らないことがあるの。どうか教えてね。

ハルカ：もちろん。日本についてすべて教えるわ。

マコト：日本について、どんなことを知りたい？ 食べ物？ それとも歴史？

ベス：実は、まず、折り紙について知りたいわ。

ハルカ：折り紙？ 日本の紙の工作のこと？

ベス：ええ。先日私が映画を見ていると、登場人物の1人が1枚の色彩豊かな紙を折って動物を作ったの。その映画の登場人物たちは未来の日本に住んでいたわ。私がそのことについて母にたずねると、母は、折り紙と呼ばれる日本の伝統についていくらか教えてくれたけど、多くは知らなかったの。

マコト：わかったよ。ぼくは、それが最近世界で多くの外国人をひきつけていると以前に聞いたよ。

ベス：ええ。(ア)私のような外国の若者たちは、それを見ると「カワイイ」と言うわ。

ハルカ：本当？ その言葉は日本語のように聞こえるわね。日本では、「それ、かわいい」と言いたいときに、それを口にすることが多いわ。

ベス：知っているわ。日本語なのよね。あなたは折り紙に興味があるかしら、マコト？

ハルカ：ないと思うわよ。日本の男の子の多くは、折り紙について何も知らないもの。

マコト：それは違うよ。実は、ぼくは折り紙についていろいろ知っているよ。

ハルカ：本当なの？ 信じられないわ。

ベス：それはすばらしいわね、マコト。折り紙につい

て教えてちょうだい。

マコト：ハルカは、折り紙は女の子のためだけのものだと思っているかもしれないけれど、かつてそれは侍の風習の1つだったんだ。600年以上前、それは敬意を込めて贈り物を包む方法として始まったと言う人がいるよ。それぞれの侍の家には、紙を折る独自のやり方があったらしいんだ。

ハルカ：それは知らなかつたわ。ベス、侍って何か知ってる？

ベス：ええ。私はいくつかの日本のアニメで侍を見たことがあるわ。私はそれにとても興味があるし、今、折り紙にいつそう興味がわいたわ。やってみたいわね。マコト、どうか私に何か作る方法を教えて。

マコト：ごめん、ぼくは折り紙は得意ではないんだ。

ベス：それは残念だわ。

ハルカ：心配しないで、ベス。私があなたに教えられるわ。そうね、あなたが侍に興味があるのなら、「かぶと」はどう？

ベス：「かぶと」って何？

ハルカ：侍のヘルメットよ。簡単に作れるわ。今、紙を何枚か持っているわ。

ハルカはかばんから2枚の紙を取り出し、そのうちの1枚をベスに渡します。

ベス：うわー、これは大きな紙ね！

ハルカ：私の手を見て、私がするようにしてね。簡単よ。まず、紙を正方形にします。次に、三角形を作るために、その紙を半分に折ります。3番目に、三角形の端にある2つの角を、残った角に向かって折ります。すると、左右に2つの三角形ができるわ。

ベス：待って。私には三角形が1つしかないわ。(ア)あなたの紙と私の紙とは何かが違っているわ。

ハルカ：あら、三角形の1つの端を、もう片方の角に向かって折ってしまったのね。それを広げて、三角形の端にある2つの角を、こんなふうに3つ目の角に向かって折ってみて。

ハルカはベスに正しい方法を示し、ベスはもう一度それを試みます。

ベス：できたわ！

ハルカ：いいわ、ベス。それから、その三角形を上に

向かって折り曲げるの。それぞれの上部を左右に折ります。それらは「かぶと」の角よ。

マコト：かぶとの上部がわかるよ！

ハルカ：最後に、紙のほかの部分を上の部分の中に折ります。はい、完成。

ベス：うわー！ すばらしいわ。

ハルカ：ベス、それを頭の上にかぶることができるわよ。

ベス：本当？

マコト：日本では、子どもたちがときどき「かぶと」を作つて、それをかぶつて楽しむんだよ。

ハルカ：そうね。私が手伝うわ。はい、どうぞ。

ハルカは「かぶと」をベスの頭にかぶせます。

ベス：ありがとう。マコト、私の写真を撮ってくれないかしら。アメリカ合衆国の両親にそれを送りたいの！

マコト：いいよ。きみは待みたいだ！

P63~77

〔練習問題〕

1 (ア) (イ) (ウ) (エ)

(解説) (ア)・(イ) 〔全文訳〕参照。 (ウ) 1 「外国人旅行者に見せるために英語で書かれたメモを持ち歩くこと」下線部の直前のカヨの発言を参照。 (エ) b 「キャロルは初めて日本に来たとき、日本人とうまく意思を伝え合うことができませんでした」本文14~18行目参照。 f 「カヨは、日本人は英語で外国人を助けるためにもっと熱心にやってみるべきだと思っています」本文37~38行目参照。

〔全文訳〕

カヨは、彼女の学校の外国语指導助手であるキャロルと話しています。

カヨ：すみません、キャロル先生。話してもいいですか。

キャロル：いいわよ、カヨ。どうぞ。

カヨ：あの、私の英会話力についてなのですが。

キャロル：わかったわ。どうしたの？

カヨ：私は昨日駅にいたのですが、このはり紙を見たんです。どうぞ、これを見てください。

はり紙

あなたは英語を話しますか。  
ほんの少しだけ？ そう、「全く話さない」より  
はよいです！  
たくさんの旅行者が日本を訪れますぐ、彼らのほとんどは日本語を話しません。  
駅で迷子になっているだれかを見かけたら、彼らのところへ行って話しかけてください。  
あなたは彼らに手を貸してあげることができるかも  
しれないのです！

キャロル：この掲示はすばらしいわ。

カヨ：それで、まさにそのとき私は駅で2人の外国人旅行者を見かけたのです。彼らは電車について情報を得ようとしていました。彼らは日本語を話せなかったので、駅員さんに英語でたずねました。でも、駅員さんはほんの片言の英語しか話さなかつたのです。その旅行者たちは理解できませんでした。彼らは心配そうでした。駅員さんもまた心配そうでした。

キャロル：私が初めて日本に来たときのようだわ。

カヨ：まあ、そうだったのですか。でも、私には彼らの質問がわかりました。

キャロル：それで、あなたはどうしたの？

カヨ：初めは恥ずかしくてきまりが悪かったのですが、彼らを手助けしようと決めたんです。

キャロル：まあ、すごいわ！ あなたは何をしたの？

カヨ：まず、その旅行者に「ここにちは」と言いました。それから「どうなさいましたか」と言いました。私は緊張しましたが、私が手助けしようとしたとき彼らはうれしそうでした。

キャロル：きっとそうだったと思うわ！

カヨ：私は駅員さんに電車の情報についてたずねると、彼は私に説明してくれました。(ウ) それから私がその情報を外国人旅行者に英語で伝えたのです。彼らはとても喜んでいました。駅員さんもうれしかったと思います。みんなが私に感謝してくれました！

キャロル：カヨ、あなたはすばらしいことをしたのよ。英語を上手に話せる日本人はたくさんいると思うわ。でも彼らは外国人を見ると、外国人が手助けを必要としているときでさえ恥ずかしがりすぎて話しかけないのよ。

カヨ：私にはその人たちの気持ちがわかります。(ウ) 見知らぬ人に話しかけるのは簡単ではありません。先生やほかの英語の先生に話しかけるのとは違います。でも、私は彼らを手助けするために全力を尽しました。私の英語は上手ではありませんでしたが、きまりが悪くはありませんでした。

キャロル：あなたの英語は上手よ、カヨ。それから、ほかに言うことがあるわ。たとえ英語が上手でなくとも、人は自分が考えているよりはうまく意思を伝えられるものなのよ。ちょうどあのはり紙のようにな。私はかつて通りで年配の男性に助けられたことがあるわ。私が迷子になったとき、彼が話しかけてくれたのよ。彼はほんの片言の英語しか話さなかつたけれど、それは私をすごく助けてくれたわ。

カヨ：ええ、私たちはもっと熱心にやってみるべきだ